



## 1、唐招提寺に日中友好の瓊花(けいか)ひらく

瓊花(けいか)はアジサイの仲間の花で、唐招提寺を開いた鑑真和上の故郷・揚州に咲く花である。その昔、中国皇帝が愛好したため、他所での栽培は禁止となっていたそうだが、日中友好のシンボルとして唐招提寺に招来されている。

以前に南京から揚子江を渡って揚州の大明寺を訪問したことが思い出される。大河、揚子江を跨いで懸かる巨大橋を車で越え、鑑真和上の寺へ行くまでにもいくつもの湖を渡った。深い木立の中の大明寺。若い坊さんが沢山並んで出迎えてくれたのは「宗教はアヘン」と言われ、僧侶が居なくなった新中国が、新たに僧侶の訓練を行っており、この大明寺にはその訓練道場施設(学校)があるためだと判る。

彼らに先導されて本堂(大雄宝殿)へ来て、また吃驚させられたのが、本尊として祀られている鑑真和上像だった。教科書でよく見る日本の国宝像。聞いてみると日中友好の象徴として門外不出の鑑真像が初めて門を出てこの地に里帰りし、中国の人との再会を果たし、中国工芸家により本物と寸分違わぬ像が造られて本尊となったのだという。

本家の唐招提寺でも昔の製作方法で同じ像を製作して、常時、拝顔できるようにしたいとのことで、今年6月の開山忌には期待できる。

唐招提寺は、すぐ近くに薬師寺もあり連休や修学旅行では大変な賑わいとなるところだが、私共が訪問した日(5/8)は、ほとんど人出もなく駐車場に苦勞することもなくてゆっくりと瓊花の鑑賞ができた。もっとも、丁度、テレビタレントの〇〇さんも来ていたそうで、「握手してもらっちゃった!」と『花よりタレント』の人が場所に似合わぬ嬌声を挙げておったけど……

瓊花の香りを生かした線香が売店で売られています。

瓊=美しい玉→瓊花=玉のように美しい花。「瓊」は中国の簡体文字。



## 2、四條畷・飯盛山

子供のころに歌った「四條畷」という歌がある。今でも大体は歌えるが、思い出せない所もあるので唱歌集を開いてみるとなんと八番までもある。

“1 吉野を出でて うち向こう 飯盛山の松風に  
なびくは雲か白旗か 響くは敵の関の声”

大和田建樹作詞 小山作之助作曲

四條畷 という地名は忘れ難く『畷』の文字は意味を知らぬままに覚えていた。  
(畷=田のあぜ道) その「四條畷」が斑鳩からそれほど遠くないところにあると聞いたのは銭湯の雑談からで、四月に後醍醐天皇の笠置へ行けたのだから関連のある四條畷へ行ってみようかということになった。

確かに近い。通い慣れてきた168号線を龍田川に沿って北上し、生駒から西へ山を越えると四條畷市だった。まずは案内標識を見て市立の「歴史民族資料館」へ行く。

案内を乞うと「ようこそ」と歓迎を受け、訪問者がないとみえて中年の学芸員さんの説明は懇切丁寧である。模型をライトで示しながら2万年前の旧石器時代から四條畷の地形・古墳の出土品などの説明をしてくださる。大変に有難いことだが、ここで時間を費やしてしまう訳にもいかず、楠正行の墓の位置を聞いて別れる。

関西特有の細い路地は車の通行には向いていないが何とか「楠正行の墓」に到着。戦前には盛大に祀られたらしく、墓石は4mはあろうかと思われる巨石。それに覆いかぶさるような樹齢570年の楠木の大木も凄かった。

昼食のあとは墓所と反対側にある「四條畷神社」へ向かう。こちらにも迷路のようで地図にある道も車の進入が出来なかったり、地図にない道もある。やっと神社に到着して驚いたのはここが『飯盛山』だったことである。年少のころは地図上の位置などは考えもせずに歌っていた。そういえば吉野からここまで何キロあるのだろうか？

数年前に吉野一帯を巡ったことがある。歴史に出てくる南朝の行在所や西行法師の旧跡にも回ったし、正行が鎌(ヤジリ)で決死隊に出る者の氏名を書いたという如意輪寺にも訪れた。 帰らじと かねて思えば梓弓 亡き数に入る名をぞ留めむ (次頁へ)

歴史の現場はいろいろなことを考えさせる。後醍醐天皇の吉野。楠勢の本拠地赤坂から四條畷まではどんな経路だったか？ なぜ飯盛山が決戦場となったのか？この小さな山(318m)を8万人で守る必要性は何だったのか？ 等々。

2 あな物々し八万騎 大将 師直いづくにか (高師直=この・もろなお)  
彼のこうべを取らずんば 再び生きて還るまじ。

6 今はやみなん。この野辺に 捨つる命は君のため  
亡き数に入る名を留めて いでや誉れを世に残せ。

8 今も雲居に声するは 四條畷のほととぎす  
若木の楠の香しき 誉れや人に語るらん。

※ 正行の戦死は1348年1月5日 行年24歳。

### 3、金環日食(蝕)は如何でした？

5月21日 日食。前日の天気予報は曇り。当番として出掛けた近所の集会所の清掃でも「明日は駄目ですね」の声が圧倒的で、ほとんど期待はしなかった。「今までに日食は何度も見たじゃあないか」とも思っていた。

しかし、寝てられない。5時には起きて東の空を見る。雲の切れ目に陽が差し、西の窓を開けると100mほど先の農家の白壁が美しい。泥縄式にサングラスを工夫。7時15分、太陽の右隅が欠けているので慌てて孫に声をかける。

7時28分頃、金環食の始まり。薄雲が懸かっているが、直射でないので見やすく幻想的で美しい。

孫は悠々と朝食中。「大丈夫！学校で見れる！」  
「本物を見るんだよオ！」 「でも、先生が見せて呉れると言ったモン！」 「ダメダコリャア！」

推薦すべきも多いが、行ったつもりの外国旅行。食べたつもりのグルメなど、疑似体験が一杯の今。千載一遇の本物を見る機会だったのに。アア！！



それにしても天文学って凄いね。どうして今日、金環日食があるって解ったんヤロ。天照大神の事件は日食だったろうって。平安時代に似たような日食があったって。次にはどこでどのような日食が分かるンだって。地球上の部分日食と金環日食の幅が分かると太陽の大きさが分かるンだって。凄い人がいるんだね。どんな頭の構造をした人なんだろう。 爪の垢を我が孫に！

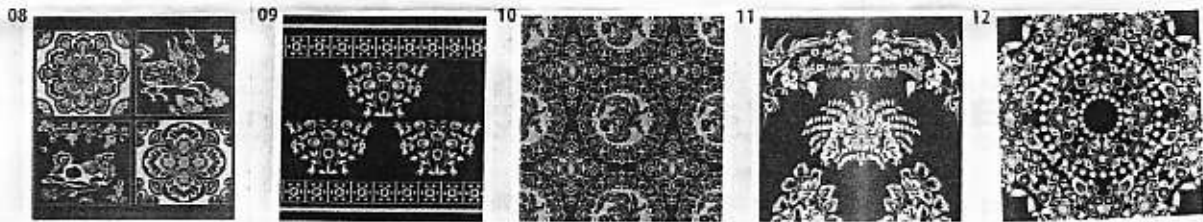
#### 4、特製ランチを当てちゃった

月に一度は天理の商店街へ行って抹茶を買う。斑鳩にお茶屋は見つからず、郡山は路地が細くて車の駐車が出来ない。大型店のは高価なだけで口に合わないし、少し遠くても天理が一番ということになる。それに、定番の天理の中華昼食が待っている。

『長寿飯店』は中国式のホテル兼レストラン。高級感があり美味くて低廉なのがよい。いつものように入店すると、改築をしたとのことで壁の装飾が美しくなり、豪華な中国陶器も壁面に飾られ、テーブル数も増えていた。

食事を終えて支払いをすると「籤を引いてください」と。何げなく一個つまんで差し出すと、何とこれが特等賞。「豪勢なる昼ランチ二人分」だった。ワーイ！

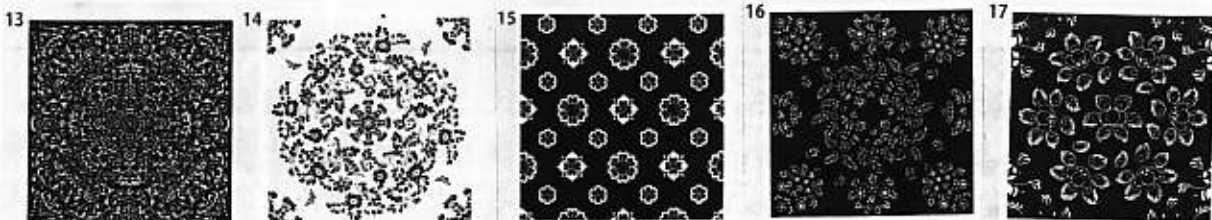
08 紅牙撥鐘尺  
09 紫壇金銀柄香炉  
10 紫地鳳形鶴御紙  
11 蘇芳地金銀絵箱  
12 平螺螺鉦背八角鏡



《正倉院御物からデザインされた斑鳩のお菓子屋の包装図案》

#### 俳句と川柳 (奈良の昨今風景：奈良新聞より)

道問わる異国の人と花見する 菜の花や 関東弁の明日香道  
一山の花に埋もれし古刹かな 花吹雪 真っ最中の三室山  
さくら散り 鯉の跳ねいる文殊池 店先に 鹿眠りいて 春うらら  
古代土器 眠る大地を春耕す 宮跡の どこも蒲公英 盛りなり  
鷗尾見える 大仏殿の遠霞 御開帳 救世観音のお出ましぞ  
筍や 猪(し)と競って勝った味 猪とせめぎ合いして句の味  
茶の所作に大和の歴史 香りたり 大和路や鳥居も人もかぎろいて  
カワセミや 出会いはしばし偶然に 石南花に千年の寺 咲き上る  
春若葉 仏に献ず 和ロウソク 牡丹燃え 当麻の塔のゆらめきぬ  
二上の皇子に黄砂 容赦なく 鐘一打 届け黄砂の向こうまで  
真っ黒の人が居座り座がシラケ 喰えないが つい終わりまで美食TV  
またしても公金横領 寧楽市 絆など流行語ですと行政マン



13 蜜陀絵皮箱  
14 緑地彩絵箱  
15 木面紫壇鉦背  
16 蘇芳地彩絵箱  
17 黒柿蘇芳染金銀絵如意箱



